

基礎からわかる2万5千分1地形図(1)

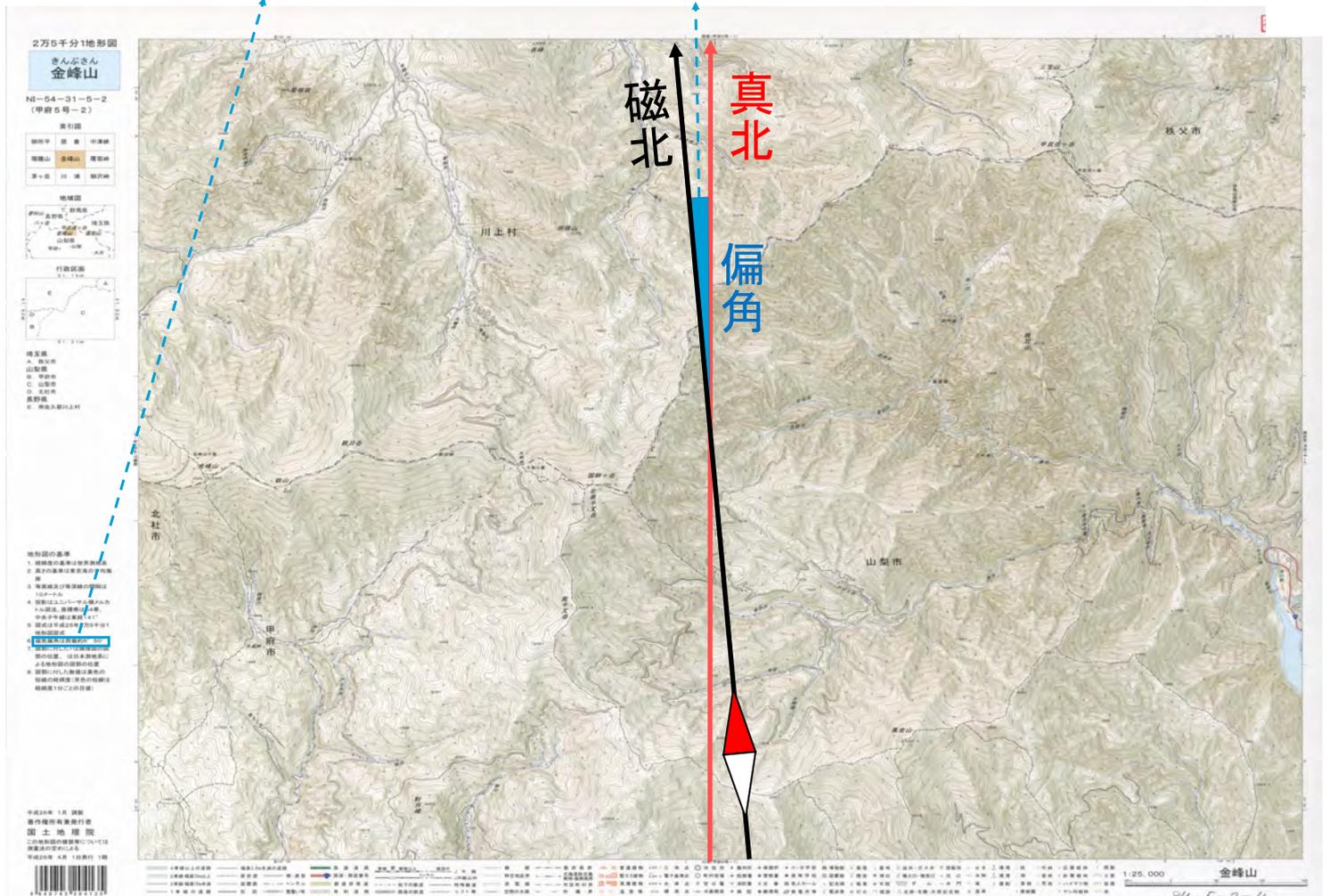
○3色刷りから多色刷りへ

- 平成25年11月から、50年ぶりに一新した多色刷り地形図の刊行を開始し、従来の3色刷りからの入れ替えをしています。
- 新しい地形図は、地形に陰影を付け立体感を表現しています。また、建物や道路はより詳細にし、建物は橙色、国道は赤色、都道府県道は黄色と多彩な色で地物を表現しています。

○地形図の方位（^{しんぼく}真北と^{じほく}磁北）

- 地形図は上方が「北」ですが、図の緯線の指す北を「真北」といいます。一方、磁石が指す北は「磁北」といい、真北と磁北の「北」は一致しません。
- 真北から磁北の傾きを^{へんかく}偏角といいますが、^{じき へんかく}偏角は場所により異なるため、地形図の整飾欄に「磁気偏角」を表示しています。

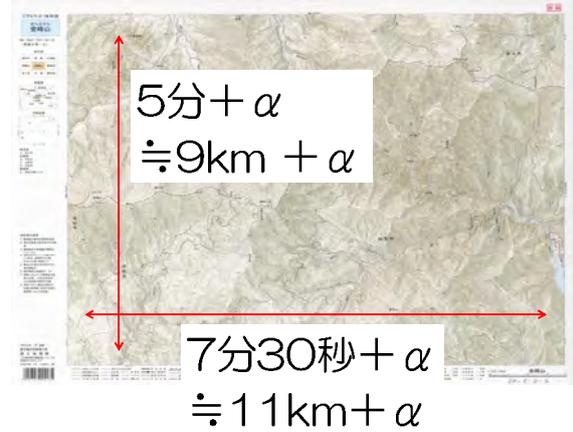
この図「金峰山」の磁気偏角は西偏約6° 50'



基礎からわかる2万5千分1地形図(2)

○地形図1枚に含まれる範囲

- 地形図1枚に表示される範囲は、経度差7分30秒、緯度差5分ごとに区画される区域に、隣図との重複部を合わせた範囲が表示されています。
- 隣図との重複部は、経度方向は緯度帯により重複幅が異なり5秒～1分15秒です。緯度方向の重なりは緯度差20秒の範囲です。



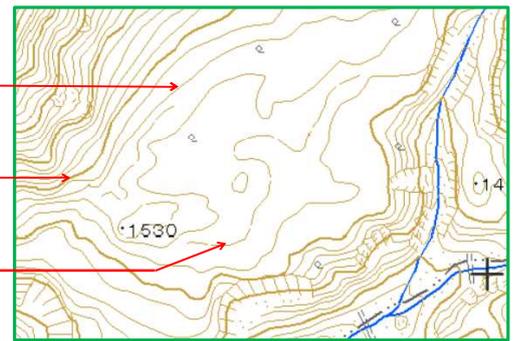
○地形図上の距離と実際の距離

地形図上	縮尺の分母	実際の距離
4cm	\times 25,000	= 100,000cm = 1km

○標高（高さ）は等高線で表す

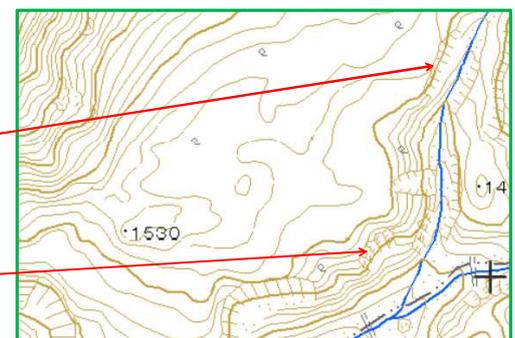
- 地形図で表示している高さは、東京湾の平均海面を0mの基準面としたもので、基準面からの高さを標高と呼びます。
- 同じ標高の場所を結んだ線を等高線といいます。等高線には以下の種類があります。

- | | |
|------|------------------------------|
| 主曲線 | 10m間隔 |
| 計曲線 | 50m間隔 |
| 補助曲線 | 5m又は2.5m間隔
(平坦で起伏の滑らかな場所) |



- 急斜面は土がけや岩がけの記号を用いて表現しています。

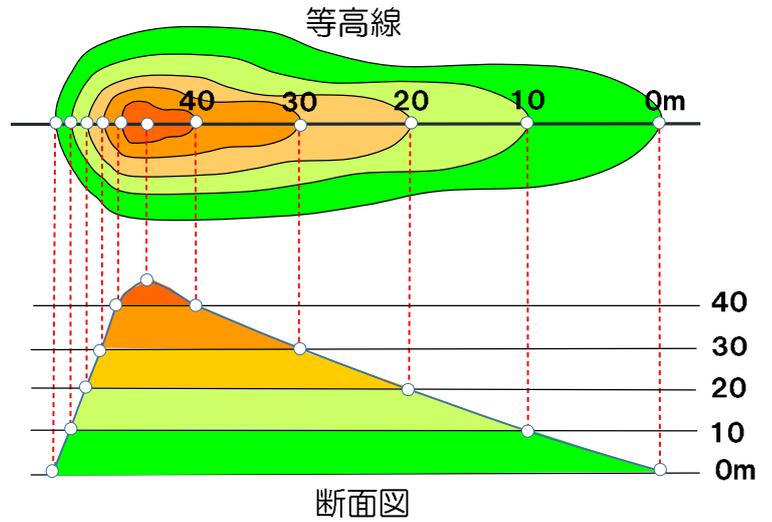
- | | | |
|-----|---|---------------------------|
| 土がけ |  | 0.5mm
がけの上部
0.5mm以上 |
| 岩がけ |  | 1.0mm
がけの上部
1.0mm以上 |



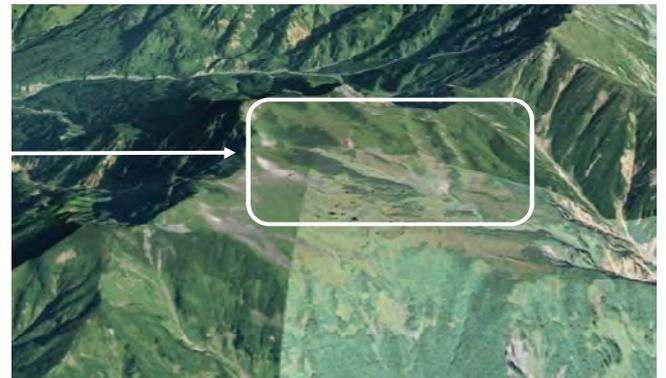
基礎からわかる2万5千分1地形図(3)

○等高線から地形を読む

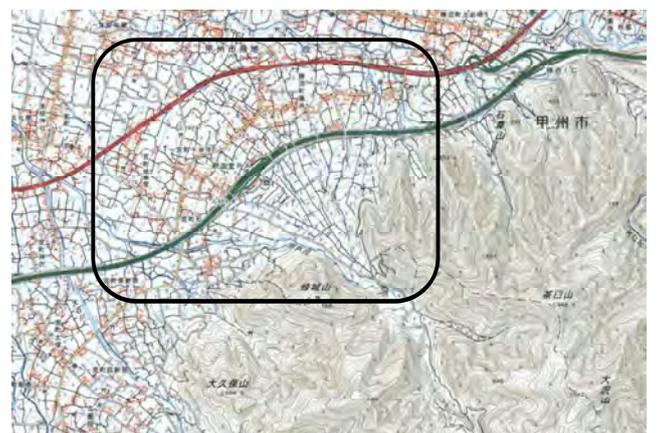
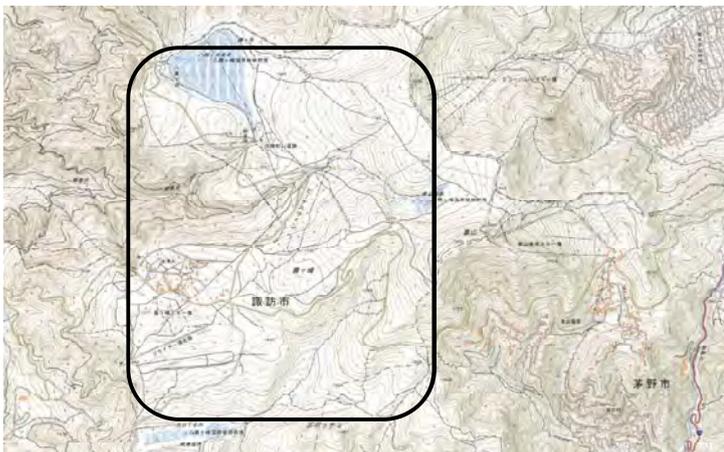
1本の等高線は途中で途切れることはなく、必ず閉じます。
等高線の間隔が狭いところは傾斜がきつく、間隔が広いところは傾斜が緩やかです。



等高線からその土地の形状を読み取ることができます。



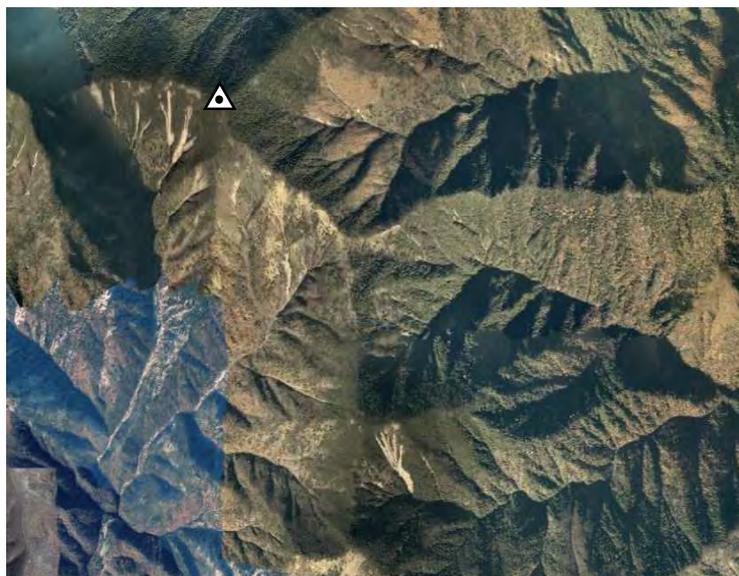
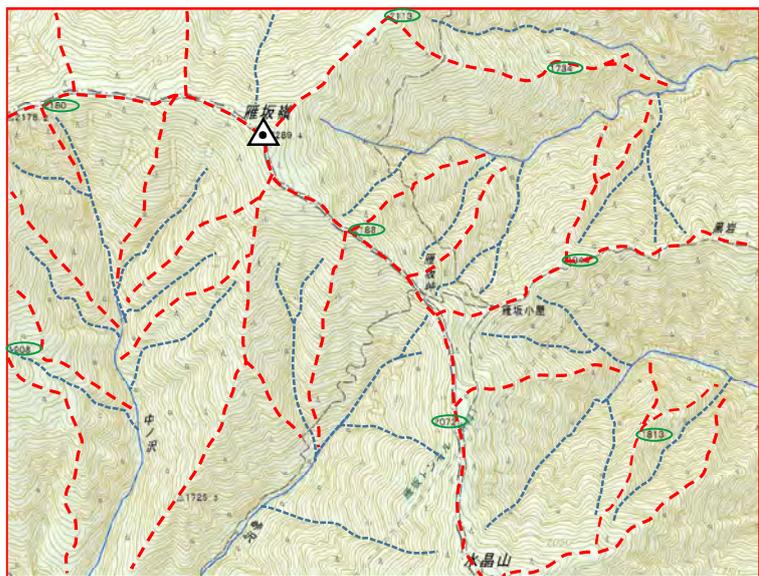
等高線から、^{きゅうしゅん}急峻な山であるかなだらかな高原であるか、また、その土地の成り立ちを知ることも可能です。



基礎からわかる2万5千分1地形図(4)

○等高線から地形を読む「尾根^{おね}」と「谷^{たに}」

- 山頂（ピーク）には、三角点が設置されていたり標高点が取得されており、山頂が尾根の出発点や分岐点になっていることが多いです。
- 等高線が山頂から外側に膨らんでいるのが尾根になります。
- 谷には河川の記号が入っている場合もあります。
- 尾根の等高線は谷の等高線よりも丸みを帯びています。
- 谷の等高線は鋭角に食い込んでいることが多いです。

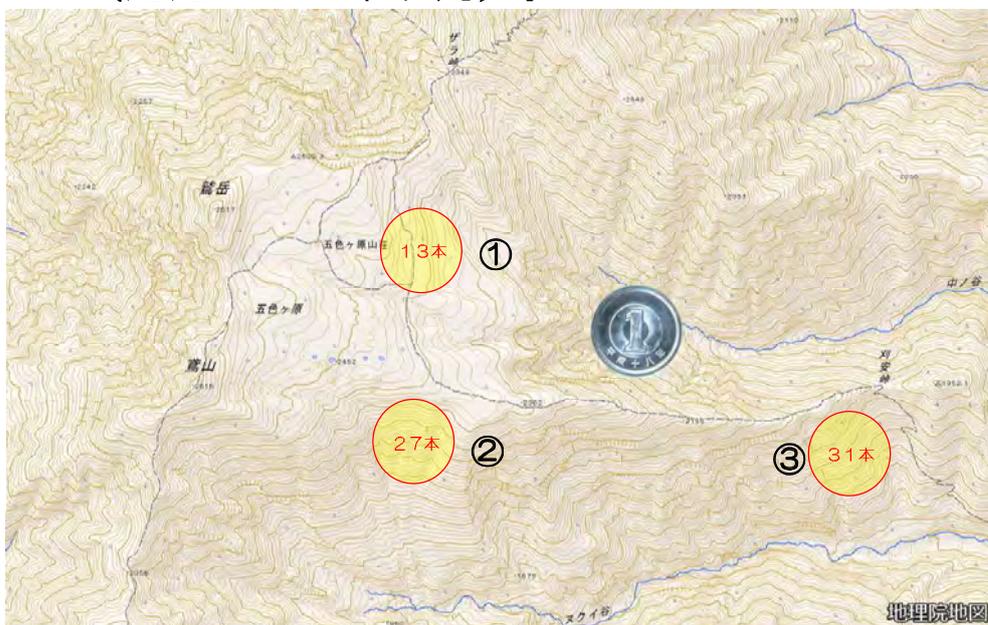


△ 三角点 ○ 標高点 - - - 尾根 - - - 谷 — 河川

(空中写真)

○等高線から傾斜を読む

直径2cmの円（一円玉の大きさ）の中に入る等高線の本数で、その地点の平均傾斜のおおよその角度を知ることができます（ただし40本以内）。



直径が2cm
||
地図上500m

- ① 13本 ÷ 13°
- ② 27本 ÷ 27°
- ③ 31本 ÷ 31°

※2万5千分1地形図と1円玉を2倍に拡大

地形図から読む登山用語(1)

○地形図から読み取れる特徴的な登山用語の地形

1. 峠^{のっし} 乗越

山越えの道が通る鞍部、または道が乗り越している尾根上を峠と呼びます。
「乗越」「越」も同意です。



常念乗越（北アルプス）

2. コル^{あんぶ} (鞍部)

コルは英語、日本語では鞍部のことです。
2つのピークの間で低くくぼんだ場所を指します。
地形的には「コル(鞍部)」のあるところに「峠」があることとなりますが、「峠」は稜線の側面の片方から反対側に乗り越えるように道がつけられているのに対して、「鞍部」は稜線上に道があるところをいいます。



八本歯のコル（南アルプス）

3. キレット^{きれっと} (切戸) 窓

稜線の一部が急激に切れ落ちている場所を指し、漢字では「切戸」などの言葉が使われています。
また、富山県側では「窓」と呼ばれています。



大切戸（北アルプス）

4. 傾斜変換点

斜面の傾斜が急激に変化する地点のことです。



蓼科山

5. 沢・谷(ゴルジュ、のど)

沢及び谷は山や丘、尾根、山脈に挟まれた、周囲より標高の低い箇所が細長く溝状に伸びた地形のことです。
ゴルジュとは狭く切り立った岩壁に挟まれた谷のことです、日本ではのどと呼ばれています。
ゴルジュはのどを意味するフランス語です。



黒部溪谷

6. 山頂(ピーク)

山頂は、山のような起伏のある地形において隣接した他の全ての地点よりも高い場所です。



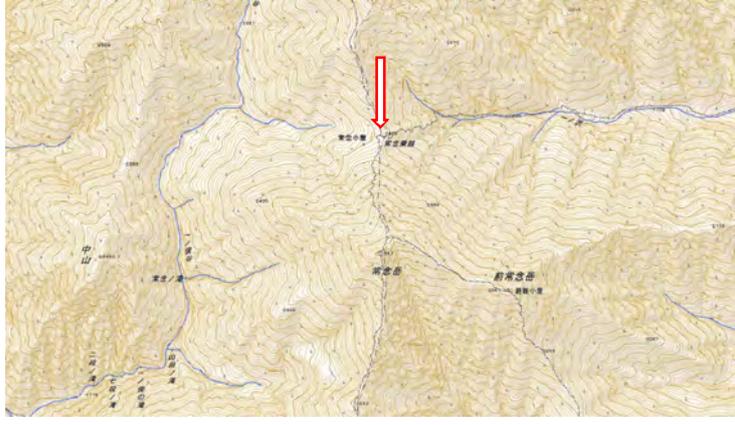
槍ヶ岳（北アルプス）

地形図から読む登山用語(2)

○等高線から地形を読む (3D空中写真との比較)

1. 峠 乗越

3D空中写真



2. コル(鞍部)

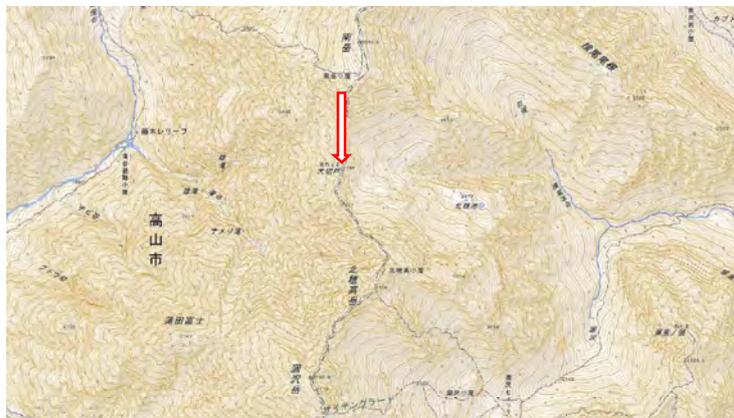


地形図から読む登山用語(3)

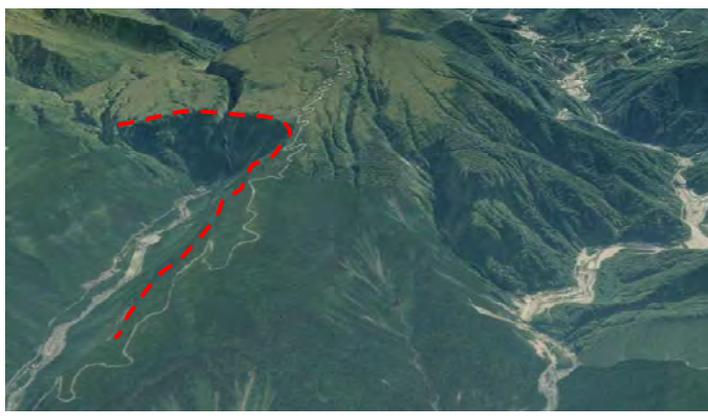
○等高線から地形を読む (3D空中写真との比較)

3. キレット(切戸) 窓

3D空中写真



4. 傾斜変換点

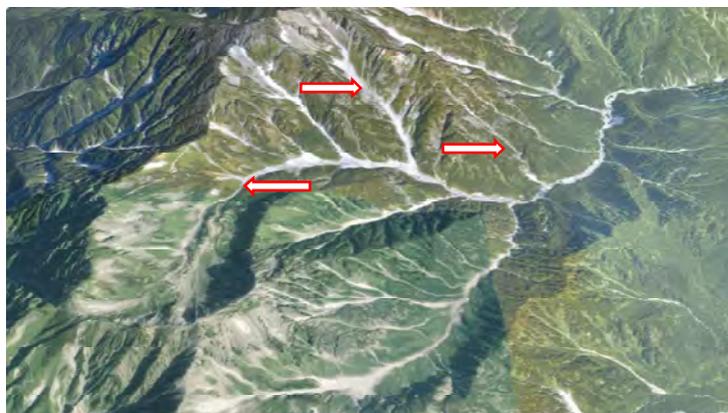
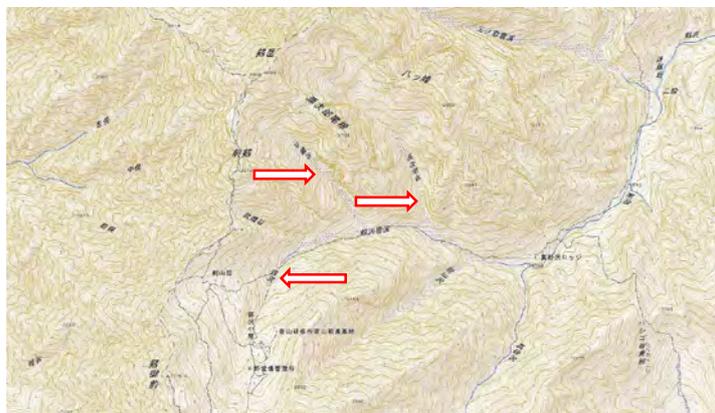


地形図から読む登山用語(4)

○等高線から地形を読む (3D空中写真との比較)

5. 沢谷 ゴルジュ(廊下)

3D空中写真



6. 山頂(ピーク)

